

# 長良九条の会だより

NO132  
2018年  
1-2月号  
事務局 林  
090-6769  
-9809



どんな世論調査からも過半数の国民は、いま憲法改正を求めていません。

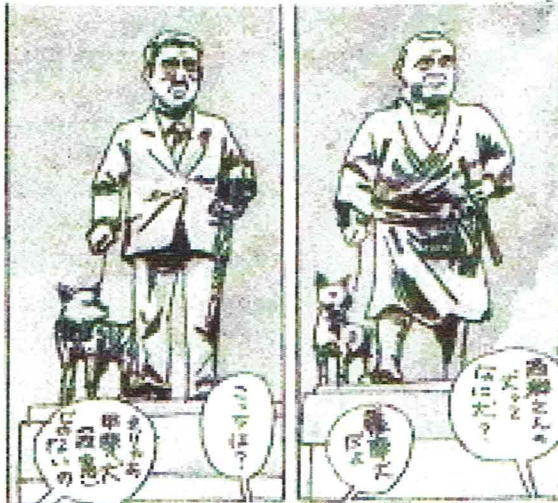
戦後の平和が憲法によって守られてきたことを知っているからです。

全国で「安倍9条改憲NO！」

3000万人統一署名運動」が広がっています。

あなたもご参加ください。

## 「長良九条の会」事務局



いぬ  
戌年に

佐藤 正明

## 沖縄・辺野古見聞記 (連載 第一回)

長良在住 高山光昭

健康友の会長良支部で企画された「沖縄辺野古ツアー」に参加、今の沖縄で見て感じて、体験したことを記します。

昨年夏の終わりに東北へ震災地を訪ねるツアー、グランドゴルフ大会三回、クラブのグランドゴルフ旅行と続き八十路を迎える身には些かオーバークワックと知りながらも今の沖縄をこの目でこの身で知りたいばかりに出かけました。

那覇空港着陸時突然、目に入ってきたのがあのオスプレイ、機数は確認できなかったが駐機しており、また、海上自衛隊の格納庫とあとこは米軍、自衛隊、民間の共用の空港か、管制は米軍だったと……。

名護市で見学した民俗資料博物館は二〇〇五年に開設した私設の博物館で、展示物は館長である真嘉比さんが一人で集めたそうです。その収集されている膨大な展示物に圧倒されたこと、点数で数万点、金額で何億円の評価にただ驚くばかり、いずれも興味深いものばかりです。

中でも、二十数年書き写している「中日春秋」(昭和20年7月25日)が些か興味のある内容でしたので「別紙」にて紹介いたします。



また「方言札」の实物は初めて見ました。話は聞いていたが標準語の使用を強制するために、学校で方言を話した者は、バツとして首から下げさせた本札で墨黒々に「方言札」と書かれています。方言札をもらった子どもは次に方言を使う子どもが現れるまで見せしめのため、これを首に掛けているければならなかった。明治時代から戦後まで続いていたそうです。軍の命令が確実に届くように方言の使用を禁止し、方言を使ったものはスパイとみなされたとのこと。各地に有るそうですが特に沖縄では厳しかったとのこと。

館長の真嘉比さんから占領下のこと、日本に復帰後のこと色々伺ったが、復帰の時日本円との交換レート変動とその混乱がりに興味深かったです。(次号に続く)

長良九条の会 3000万人署名		
	各月実績	累計筆数
2017-10月	170筆	170筆
-11月	70筆	240筆
-12月	150筆	390筆
2018-1月	50筆	440筆
2018-2月	?	?

\*署名済み用紙をいただきにお伺いしますのでよろしく願います。  
(毎月25日締め) 事務局より

- ### 今後の予定
- ◆2月19日(月) 17時~ 名鉄岐阜駅前  
「もう黙っとれんアピールアクション」署名活動
  - ◆2月24日(火) 14時~ 長良公園研修センター  
第8回ながら憲法カフェ「最近の報道で思うこと」  
\*助言者 岡本浩明弁護士・津田正夫氏
  - ◆3月9日(月) 16時~ ビアゴ 長良店  
「長良九条の会」3,000万人署名活動

カンパの報告(2・7現在)  
50名 14万2000円  
カンパをありがとうございます。

戦争体験者に語っていただきました。

## 「花も蕾の若桜！！」一

岐阜市岩崎在住 井口日出男

あれからもう74年にもなる。勤労学徒の動員で「ペンをハンマーに替えて」軍需工場の勤務についた。あこがれの中学生（旧制）になったのが、太平洋戦争が始まった翌年だった。資源の少ない日本が、大和魂と神風だけを信じて居ても無理だ。資源の豊富な米英と戦って勝てるはずがない。初めのうちは、フィリピン、マレーシアの辺りまで攻め込まれた米英も、かのマッカーサー元帥が「I shall return」と言った通りソロモン、ミンダナオの辺りの反撃で日本を負かし甚大な損害を与えられた。

当時の中学生も段々と勉強をする時間が少なくなり運動場まで掘り起こし、サツマイモを植えた。道路の端には大豆を蒔いて食糧の増産に励んだ。1年生、2年生の時は、農家の勤労奉仕に出された。3年生の7月からは、いよいよ“花も蕾の若桜、5尺の命引っ提げて、国の大事に任ずるは、我等学徒の本分ぞ。ああ紅の血は燃ゆる”と歌いながら、14、15の少年が家を離れて、武器の生産に勤務した。3年生の夏に、可児郡土田村の萱場産業（カヤバ）へ配置された。1日3交替の8時間労働で、冬の夜勤は本当に辛かった。広い工場には、暖房もなく眠気に襲われながら働いた。寮の生活もみじめなものだった。布団は綿が一方に片寄った煎餅布団で、暖房には、土瓶に湯を入れて皆で足を入れて寝た。食事は豆か芋の入ったご飯で、汁にはピーマンが浮いていた。果物代わりに桑畑へ行って桑の実を採り、口を紫色に染めていた。砂糖は全くなくて、草の入った饅頭の特配を受けたこともあった。

工場で製作したのは、飛行機の油圧部品と脚を旋盤で削った。夜勤の時、鋭い切子を踏んで足を怪我してしまった。三針ほど縫って貰い、痛かったけれど家に帰れることが大変嬉しかった。故郷の恵那山を近くに眺めて懐かしい我が家へ久し振りに帰った。

その頃、鳥居松の工場が敵機B29の爆撃を受けてしまい工場疎開となり、瑞浪の稲津へ移って来た。谷川沿いに多数の小屋工場が出来て、上級生も一緒に働くこととなった。

したがって、作業も変わり、陸軍の小銃を生産するようになった。そして家から通勤することになり嬉しかったけれど3時間もかけて通わねばならなかったのは辛かった。

3ヶ月の通勤は随分と体力を使い、苦しい日々だった。そして終戦の8月15日を迎えたのも稲津であった。充分聞きとれなかったが、先生から戦争に負けたのだと聞き、悔しさが込み上げて来た。

学校に戻り、ボロボロの教科書で勉強を再開した。春になって4年修了で、官立の旧制高校に入学できた。

寮生活は未だ食料不足で不自由な時代だったが、優秀な学友に恵まれ有意義な3年間を過ごした。世の中も徐々に好転し楽しい想いも一杯である。教職に就き、送り出した子どもには絶対に惨めな思いはさせたくない。

# NO MORE WAR!!!

つぶやき



早田の友愛プールをご存知でしょうか。障がい者と60歳以上の高齢者が使用できる県の施設です。

先日、そこでたまたま家の近所の方に出会いました。その方の家には障がいをもつ子があつて、その子は耳が聞こえず、話せない小1ぐらいの少女でした。お父さんと来られていて、話はすべて手話でした。帰るときに「さよなら」と言ったら、可愛い手を出してハイタッチしてくれてとても嬉しかったです。

自分がこの子を何年も知らずにいたことが、驚きと同時に、なぜかという疑問にとらわれながら帰路についた。

常々、私が思っていることは、障がいのある人もない人も、共に当たり前に、普通に生活することができるかとても大事じゃないだろうかということです。それを改めて痛感した一日でした。

(平塚)